



一般社団法人 日本物流団体連合会
Japan Association for Logistics and Transport

〒100-0013
東京都千代田区霞が関3丁目3番3号
全日通霞が関ビル5階
TEL:03-3593-0139
FAX:03-3593-0138
URL:www.butsuryu.or.jp

News Release

令和4年4月15日

第20回「物流連懇談会」を開催

(一社)日本物流団体連合会(池田潤一郎会長)は、4月14日(木)、東京都千代田区の学士会館において、第20回「物流連懇談会」を開催した。この物流連懇談会は、物流業界の幅広い会員の参加を得て、会員への情報提供、会員相互の情報交換・交流のために行われている。コロナ禍が継続する昨今ではあるが、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで対面にて開催する運びとなった。今回は、成田国際空港株式会社 代表取締役社長である田村明比古氏から「成田空港の現状とこれから ～航空貨物を中心として～」と題する講演が行われ、会員企業の代表者や幹部など56名の参加があった。

冒頭、池田物流連会長の挨拶ののち、講演会が始まった。

講演では、新型コロナウイルスの影響も含めた成田空港の現状の説明のほか、サステナビリティ経営推進の観点から環境負荷の低減、先進技術の導入、あるいは就労環境の向上等、成田空港における様々な取り組みが紹介された。

航空貨物取扱は開港以来増加している成田空港であるが、中長期的には世界の航空需要は引き続き拡大が予測され、わが国の国際競争力の維持のためには今後も首都圏空港の機能強化は重要、その拡大する需要を受けとめるのは拡張余地の限られる羽田より成田である、との考えから成田空港において持続可能な物流体制を構築する必要性を説明された。

近年近隣アジア諸国を中心に各国が空港機能強化を推進しており、日本においても世界の航空市場の変化に対応しながら「新しい成田空港」構想の検討をする時期との考えを示され、デジタル技術を活用した空港の更なる自動化、アクセスの改善をはじめ成田空港貨物地区の将来構想、貨物機能の高度化、効率化等、「新しい成田空港」構想を語られて講演を終えられた。

講演後の質疑応答では、講義内容を受け、アジア各国の競合するハブ空港への対抗策、成田空港取扱貨物が効率的に機能するために求められる近隣拠点の倉庫・保管施設のあり方、トランジット貨物の成田における現状の取り扱い割合について等の質問を受け、田村社長に丁寧かつ詳細に回答して頂いた。

1978年の開港から日本と世界の物流の窓口として日本経済を支えた成田空港、今後の機能強化とさらなる成長に期待したい。

以上

担当：森下



池田会長の挨拶



講演する田村社長



講演する田村社長



講演会風景



活発な質疑応答